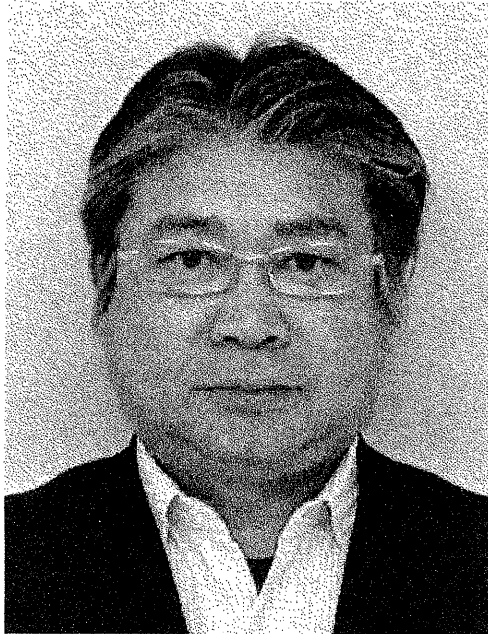


認知症：これまでは傍観者、これからは当事者として

～認知症に対する見方が変わると地域が変わる～



いのうえ けんいち

講師：井上 謙一氏

認定NPO法人

じゃんけんぽん 理事長

日時：平成25年 8月17日（土）午後1時～4時

場所：渋川市中央公民館

資料代：500円 *当法人会員は無料

☆ 講演終了後、講師を囲んで懇談会を行います。

お問い合わせ先：日本福祉教育研究所

TEL 0279-24-3999（妹尾 信孝）

ホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~fukusi/>

講師プロフィール

1952年利根村（現沼田市）に生まれる。1975年東京都市大学（旧武蔵工業大学）土木工学科卒。都内建設会社に22年間勤務、1998年会社倒産により群馬に戻ったがうつ状態になり、ほぼ半年自宅に閉じこもった。苦しい毎日の中で強まったのは「利益が第一目的でない仕事をしたい」との思い。弱者支援への関心が生まれ子どもや高齢者、障がい者が同じ場所で過ごす共生型のケアを知った。現在、介護保険事業（認知症グループホーム、小規模多機能、認知症デイ）、インフォーマル事業（生活支援、居場所、配食、福祉移送、地域通貨、自然体験活動）を展開中、誰もが住み慣れた地域で最期まで安心して住み続ける地域づくりを目指している。

講師からのひとこと

これまでは、認知症というと「自分には関係ない」「関わりたくない」「危険」「迷惑」「早く施設に入れて」等々その症状から家族や周りが疲弊してしまい、早くそこから切り離してプロに任せた方がいいという傍観者的意見が多く聞かれました。

しかし、これからは認知症に対する意識が大きく変わってきています。それは認知症の理解が進み誰もが認知症なる可能性があること、即ちすべての人が当事者であることを認識してきたためです。当事者意識が高まると「明日は我が身」「できることを手伝いたい」「みんなで見守りたい」という意見がアンケートで、多数見られるようになりました。住民同士の適切な関わりや介入が早期から行われれば、軽度の認知症はもちろん、少し進んだ認知症の人でも専門職の手を借りずに、その人らしく地域で生きていけるのです。

次回 第76回 「人塾」のご案内

演題：『国際障害者年とインクルーシブ教育』

講師：東京未来大学こども心理学部 教授

上田 征三 氏

日時：平成25年 10月19日（土）午後1時～4時

場所：渋川市中央公民館（予定）

人塾とは

当研究所の活動の一環で、共生社会推進のための人材育成と豊かな心を育む学びと語らいの場です。